

「S-1+DTX療法」について

この治療法は、胃癌の代表的な治療法です。この治療法ではS-1という内服薬と、DTXという注射薬の2種類の抗がん剤が使用されています。S-1はテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム、DTXはドセタキセルの略称です。

1. 投与方法

1) 注射薬

薬剤	効能または使用目的	投与時間
パロノセトロン+ デキサメタゾン	吐き気止め(急性期) 吐き気、アレルギー、 むくみ予防	15分
ドセタキセル	抗がん剤	60分
生理食塩液	点滴ルートの洗浄	約5分

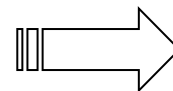
2) 内服薬

S-1	抗がん剤	朝夕食後内服
-----	------	--------

2. スケジュール

S-1+DTX 療法は21日サイクルで抗がん剤を投与していきます。内服薬のS-1は初日の夕食後からスタートし、15日目の朝食後まで内服します。その後の7日間は休薬期間になります。注射薬のドセタキセルは初日のみに点滴を行い、残りの20日間は休薬期間になります。「休薬期間」とは、体調の回復を待つ時期であり、その後同様にして治療が進んでいきます。

	1サイクル目		
	1日目	2日目~14日目	15日目~21日目
ドセタキセル	○		
S-1		○	
休薬日			○



3. 特徴

●ドセタキセル

作用: がん細胞が分裂する過程で作用し、抗がん作用を示します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感を感じたらお知らせください。

このお薬を溶解するためにアルコールを含む溶液を使用します。

(アルコールに対してアレルギーのある方はお申し出ください)

●S-1

作用: がん細胞のDNA合成を抑制すると共に、たんぱく質の合成も阻害することで抗がん作用を示します。

注意事項: 「カペシタビン」という抗がん剤と併用すると副作用が重篤化してしまうため併用禁忌となっています。

ワルファリンカリウム(抗凝固薬)、フェニトイン(抗けいれん薬)を服用している場合は申し出てください。

4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にさせていただきたいと思います。)

白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる(免疫反応)役割があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

好発時期: 抗がん剤を投与後7~10日目くらいに減少のピークを迎え、14~21日目くらいには回復します。

対策: 細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。**手洗い、うがい**を心がけましょう。

外出時はマスクを着用してください。

虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療をしておくことをお勧めします。

好発時期に38℃以上の発熱があった場合はご連絡ください。



脱毛

好発時期: 2~3週間過ぎた頃から起こりやすいです。ただし、治療終了後2~3ヶ月で回復し始めます。

対策: 症状が現れたら、回復まではスカーフ、かつらなどを着用していただくとよいでしょう。

外出時は直射日光を避けていただくため帽子をかぶるとよいでしょう。

頭皮を清潔に保っていただくことをお勧めします。ただし、刺激の強いシャンプー等は避けてください。



疲労感

好発時期: 注射後(特に白血球の減少している時期)に体の疲れやだるさを感じる場合があります。

対策: こまめに休息を取り、睡眠時間を確保して、身体を休ませましょう。

抗がん剤以外の原因で症状がおきることがあります。**症状が長続きするときにはご相談ください。**



吐き気・嘔吐

好発時期: S-1内服中

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、

S-1内服中は症状が持続する方もいらっしゃいます。

対策: 抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。



考えすぎるとそれだけで症状が出てくることがあります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分(水、スポーツドリンク、など)はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。

便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。

部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。

下痢

好発時期: 投与から数日後に起こりやすくなりますが、症状は軽いことが多いようです。

対策: 水分を多めに取って脱水が起きないように心がけてください。

牛乳などの乳製品、コーヒー、アルコールは避けた方がよいでしょう。

頻回の水様便や発熱を伴う場合はご相談ください。



口内炎

口の中の粘膜が抗がん剤によって直接障害されてできる場合と、抵抗力の低下に伴う口腔内細菌の増殖によっておこる場合があります。症状は口腔内の違和感、疼痛、出血、冷温水痛、発赤、腫脹などです。

好発時期: 抗がん剤投与後、数日～14日目くらいに発症しやすくなります。

対策: 次のような状態は口内炎が発症しやすくなります。

1. 口腔衛生状態の不良

虫歯、歯周病、舌苔が多い、義歯が合っていない、歯磨きやうがいができない(できていない)、など

2. 免疫能の低下

高齢者、ステロイドの使用、糖尿病、抗がん剤治療、など

3. 栄養状態の不良

4. 口腔付近の放射線治療

5. 喫煙

口腔内血流の低下、白血球・マクロファージの機能低下、歯石の形成などが原因と考えられる。

口内炎には予防が重要です！口の中を清潔に保ってください。

1. 食後の歯磨き

歯ブラシは柔らかいものを使用して不用意に傷を作らないように心がけてください。

2. うがい

歯磨き以外でも口の中が不快な場合(乾燥、違和感、口臭、など)はその都度行うことがよいでしょう。

生理食塩液や水でうがいしていただいても十分効果がありますが、マウスウォッシュを使用する場合は低刺激性のものを選択してください。

生理食塩液

食塩: 4.5g ⇒ 小さじ(5cc)で約1杯

水を加えて500ml 起きている間2～3時間毎にうがい

3. 禁煙

口内炎が出来てしまったら、刺激物や熱いものは避けてください。

水分は刺激を与えないよう、ストローを使うとよいでしょう。

必要に応じてお薬を処方しますので口内炎が出来てしまったらご相談ください。

水疱や、白苔ができた場合は早めにご連絡ください。

むくみ

好発時期:治療が進むにつれて、むくみが出やすくなると言われています。

治療が終了すると軽快消失していくといわれています。

対策:長時間の立ち仕事はむくみの原因になります。

塩分の多い食品はなるべく避けた方がよいでしょう。

マッサージをすることで予防、解消することもあります。

毎日体重を量るとよいでしょう。

むくみによって急激な体重増加や息苦しさが起きた場合はご相談ください。



しびれ(末梢神経障害)

末梢神経障害は抗がん剤が知覚神経や運動神経を障害することで発症します。症状は手、足先から出てくることが多く、しびれ、感覚麻痺などが初期症状として出てきます。症状が進行すると筋肉に力が入りにくくなり、つまずきや転倒の原因にもなります。ほとんどの場合治療が終了すれば回復してきますが、時間がかかる(数ヶ月～1年)場合もあり、症状の強さに応じてお薬を処方することもあります。

好発時期:ドセタキセルの治療が長くなってくると(約5回目以降)症状が出てくる場合があります。

症状が進行すると「ボタンがかけにくい、物を落とす、1枚膜を張ったよう、つまづきやすいなど日常生活に影響がでてくる場合があります。

対策:早い時期に発見した方が回復も早いので、日ごろから注意してください。

症状があるときには刺激を与えないよう心がけてください。水を使うときには手袋を使用する、など。

しびれの症状は我慢せず、しびれの強さや範囲、日常生活で困ることをお知らせください。

関節痛・筋肉痛

好発時期:抗がん剤投与の2～3日後位に出てくる場合があります。ただし、症状は軽く数日で回復する場合があります。

症状が辛い場合はお伝えください。

対策:患部のマッサージで血流を改善するとよくなる場合があります。

強さによって痛み止めを処方することもできますのでお伝えください。

間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。確率は低いですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ、呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

対応: 初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。



血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまう(漏出)ことがまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れ、などがあり、場合によっては血管に沿って症状が出てくるときもあります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

好発時期: 点滴している間が最も多く、まれに帰宅数日後に症状が出てくることがあります。

対策: 抗がん剤の種類によって対策が異なります。基本的には患部を温めたり、軟膏や注射による治療を行います。

※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院

代表:TEL 028-626-5500